

滋賀県がん診療連携協議会・第7回(平成22年度第4回)地域連携部会議事概要

日 時 平成23年2月25日(金)午後2時~午後4時
場 所 大津赤十字病院 外来棟6階会議室
出席者 各部会員

1. 経過報告と今後の予定について

各医療圏から取組み状況の報告がされた。

大津・湖西医療圏(大津赤十字病院より報告)

- ・平成22年11月13日高島市民対象の研修会実施
- ・平成23年2月1日大津赤十字病院消化器科系医師対象「5大がん地域連携パス説明会」を実施
- ・平成23年2月2日大津赤十字病院外科系医師・看護師・関連職員対象「5大がん地域連携パス説明会」を実施
- ・平成23年2月16日大津赤十字病院呼吸器科系医師・看護師・関連職員対象「5大がん地域連携パス説明会」を実施
- ・平成23年3月4日第4回大津・湖西地域がん診療連携協議会幹事会の実施(予定)
- ・平成23年3月25日第2回大津・湖西地域がん診療連携協議会協議会の実施(予定)
- ・大腸がん地域連携パス1件、胃がん地域連携パス4件が運用中

湖北医療圏(市立長浜病院より報告)

- ・施設基準届出済医療機関は市立長浜病院が34医療機関、長浜赤十字病院が22医療機関と提携済
- ・地域連携パス運用状況は胃がん地域連携パス10件、大腸がん地域連携パス7件、肝がん地域連携パス1件、乳がん地域連携パス2件運用中

湖東医療圏(彦根市立病院より報告)

- ・平成23年3月25日22年度第3回彦根市立病院がん診療連携会議開催予定、院内医師にパス運用を推進
- ・地域連携パス運用状況は胃がん地域連携パス1件運用中
- ・施設基準届出済医療機関は16医療機関と提携済

甲賀医療圏(公立甲賀病院より報告)

- ・平成22年12月3・4日日本クリニカルパス学会学術集会(松山市)デジタルポスター発表
- ・平成22年12月16日「第3回甲賀医療圏5大がんパス推進・検証部会」「第2回甲賀医療圏がん診療ネットワーク研究会世話人会議」開催
- ・平成23年1月15日「甲賀医療圏がん診療ネットワーク研究会市民公開講座」「甲賀医療圏がん診療ネットワーク研究会」

- ・平成 23 年 2 月 2 日「市民公開講座及び第 2 回甲賀医療圏がん診療ネットワーク研究会の反省会」開催
- ・平成 23 年 2 月 24 日「第 4 回甲賀医療圏 5 大がんパス推進・検証部会」開催
- 「第 3 回甲賀医療圏がん診療ネットワーク研究会世話人会議」開催
- ・地域連携パス運用状況は胃がん地域連携パス 4 件、大腸がん地域連携パス 5 件
- ・施設基準届出済医療機関は 22 医療機関と提携済

東近江医療圏(滋賀医科大学付属病院より報告)

- ・平成 23 年 1 月 25 日近江八幡市蒲生郡医師会定例会開催
- ・平成 23 年 1 月 29 日東近江医師会定例会開催
- ・地域連携パス運用状況は 0 件
- ・今後は 24 医療機関と連携を結び施設基準届出を行う予定

湖南医療圏(滋賀県成人病センターより報告)

- ・平成 23 年 1 月病診連携合同会議の開催(地域医師会役員等との意見交換)
守山野洲医師会、草津栗東医師会、成人病センター参加
- ・平成 23 年 3 月中旬～下旬 第 1 回協議会開催予定
- ・地域連携パス運用状況は胃がん地域連携パス 5 件、大腸がん地域連携パス 14 件
肝がん地域連携パス 1 件

平成 22 年度の取組状況について地域連携部会プログラムを用いて説明された。

2. 「滋賀県 5 大がん地域連携パス作業部会」報告

(1) 滋賀県 5 大がん地域連携パス進捗状況について

現在、滋賀県下では 53 例運用されている。1 年先、何例報告できるのかで地域連携部会の評価が決まる。これからの 1 年にかかっている。

肺がんについてはなぜ少ないのか、他の 4 大がんとの格差が生じているのはなぜなのか要因は考えられるが、今後検証する必要がある。

経過観察パスはプラスとマイナスに作用している。この点が件数に反映されていると思われる。

(2) 滋賀県 5 大がん地域連携パス Q&A について

Q&A 表 No.18～No.21 の 4 件の要望・修正点について回答済であることの報告が行われた。

No.21 の「連絡ノート」の運用方法についての補足説明として、「私のカルテ」の本来の意義を考えると「連絡ノート」は情報の共有ツールであり、補足的な役目を行うものである。患者さんからの大事な発言があれば診療記録に必ず記載するため、「連絡ノート」の記載内容をコピーして残すものでもない。

(3) 滋賀県進行胃がん・大腸がん地域連携パスの取組みについて

進行胃がん地域連携パス(原案)の説明を、地域連携作業部会員から行われた。

現在の経過観察パスは早期がん限定された地域連携パスのために早期がん限定され、症例件数もさほどのびていない。また、Stage はがん地域連携パスの最終目的ではない。研究の結果、飲み薬で再発を防ぐことが可能である。

日本胃がん学会が出している胃がんの患者さんの退院後のフォローアップとして作成されたものをサンプルで提出させていただいたが、全国の進行胃がん地域連携パスの利点を参考に原案を作成した。

入院患者適用型地域連携パスとなっている。

原案は2グループに分かれており、1つは化学療法の有無を問わないものとし、もう1つは化学療法を付加する場合の地域連携パスとなっている。

かかりつけ医の存在が2人体制の点は担保しており非常に安心感のある進行胃がん地域連携パス(原案)となっている。

進行大腸がん地域連携パス(原案)については、地域連携部会長より説明された。

乳がんのように最初の化学療法6か月間は手術病院で引き受け、そのタイミングから地域連携を始めてはどうかという提案である。

進行大腸・胃がん地域連携パス(原案)に関しては今後も引き続き検討していきたい。

3. 第4回地域連携パス研修会について

3月26日(土)予定の第4回地域連携パス研修会についての説明があった。

4. 当面の取組について

3月26日(土) 第4回地域連携パス研修会開催(予定)

場所：大津赤十字病院 地域医療研修センター 小講堂

時間：16:30～18:30

第8回地域連携部会開催については、作業部会で進行胃・大腸がん地域連携パスの議論を重ねたのち開催することとする。

5. その他

大津赤十字病院では、院内用の5大がん地域連携パスのパンフレットを作成し、外来窓口に設置する予定となっている。良い評価が得られるならば、もう少し内容を見直し、滋賀県下で使用可能なパンフレットの作成を検討する。

以上